



- TOTO(株)工場見学記
- 「川でつながる発表会」のお知らせ
- ◆新シリーズ「白子川Q&A」
- ◆鈴木一彦さんを偲んで
- 新会員紹介(横山聖子さん)
- 定例活動報告

新シリーズ

白子川な風景 1

源流部

空を高くある畑



白子川の源流を守る練馬の大地の一端を、「白子川な風景」として連載します。
東谷篤さんの一〇回続いた「白子川な人」の「人」から「風景」への広がりを試みます。

秋も深まる十二月初旬に、いつもは道ばたから水平にながめていた山口さんちの畑を、都営アパートの最上階からはじめて見おろした。

広大な沃地に圧倒された。野菜畑の奥の方に屋敷森が静かにたたずむ、永い営農の苦しみを包みかくすようにケヤキの紅葉が陽に映えて。

武蔵野らしい《ふるさとの風景》だ。ふと「オ〜イ！」と叫びたくなつた。遠くにいる誰かが少し遅れて「オ〜イ！」と返してくれるはずもないのに。そんな調和的なシーンさえ予感したほどだった。

*

風景はつながっている。

畑からの恵み↓地上・地中の生き物への恵み↓畑に降った雨は貴重な水源に↓水辺の生き物たちの恵みへと。

こんな大泉界わいの風景のつながりは、実は古代から現代まで営々と続く壮大な時間だ。

大泉で育った子どもたちがいずれこの地を離れて暮らす時に、この《ふるさとの風景》を想い出すだろうか…。

(菅沢博)

定例活動報告

8月、9月、10月、11月

□白子川源流域の様子

水量は保持!



生きものの環境は今…

夏から秋にかけて、源流域はある程度の水量を保持している。

9月は雨のため、10月は源流まつりで定例活動はできなかったが、11月には、生物調査隊がアブラハヤの群れ約 100 匹を確認した。ホトケドジョウ、ギンブナ、アメリカザリガニ、スジエビ、アメンボなどは毎回のように確認している。季節によってはアマガエル、シオカラトンボやイトトンボ、そしてそのヤゴなどを発見。どれも湧水があればこそこののちだ。

ただ源流部の水生植物の変化は、目に見えて変わってきている。6~7年前までのオオフサモに覆い尽くされた源流部は今ではもう昔。ウキヤガラ、カンガレイ、ガマ等背丈の高い植物が所せましと幅をきかせて、水中さえふさがんばかり。冬枯れを待って根っこから刈り取る必要があるのだが、これらの植物は人力以上の頑丈さとしたたかさを持ち合わせている。ここ数年、人とこれらの植物の静かな戦いが繰り広げられている。

驕り栄えるものは久しからず…とは、人間界だけのことではないだろう。今、栄華を極めるこの植物も、また別のものにとってかわられる日がきつとくる。そう長いスパンの話でもなさそうだ。それを見届けるために、これからもずっと川に行こう。(東谷貞子)

十一月、あそびに来ていた親子づれに、源流の生きものをみせる。川に親しむ一番のチャンス。



| 測定地点 | 日 | 天気 | | | |
|------|------|------|------|-------|-------|
| | | 8/26 | 9/23 | 10/28 | 11/25 |
| 源流部 | 水温℃ | 38 | 源 | 11 | |
| | 水深cm | 27.9 | 雨 | 流 | 16.0 |
| | pH | 11 | 天 | ま | 15 |
| 井頭橋 | 水温℃ | 4.7 | 中 | つ | 6.5 |
| | 水深cm | 27.5 | 止 | り | 13.8 |
| | pH | 18 | (太南) | 少 | 23 |
| | | 5.8 | | | 6.2 |

このほか、透視度、電気伝導度、COD、川幅、堰の流量などを測定している。

活動記録

- 8/29 源流通信第36号発行
- 9/1 源流まつり実行委員会②
- 19 TOTO奨助成金25年度分申請
- 23 定例活動
- 29 白子川グッズ各種制作
- 10/12 白子川地下調節池(トンネル)見学
- 14 源流まつり実行委員会③
- 18 TOTO奨助成金関係者へ白子川紹介
- 28 第12回源流まつり(雨の為南小で)
- 31 全国のまちづくり関係者(8人)白子川に来訪
- 11/9 川づくり連絡会に出席

- 11/11 ごたごた荘のイベントに出展
- 17 大泉地域交流会に参加
- 19 TOTO奨助成金ヒヤリング
- 22 鈴木一彦会員逝去
- 23 源流まつり反省会と運営会議
- 25 定例活動
- 30 TOTO奨助成金中間報告書提出
- 12/8 地域活動団体交流会に参加
- 16 早稲田高等学院現役・08 地理関係の先生方白子川に来訪
- 22 運営会議
- 23 定例活動、竹キャンドル、望年会

鈴木一彦さんを偲んで

たしか2005年頃、猛暑で白子川源流が干上がったので川に“放水”しているのを見て「何やってんですか？」とやってきたのが鈴木一彦さん。ほどなく入会後は、ほとんどの活動に参加されました。川行事が“夕暮れ時”に終わったりすると、「あの…このあとチョットやるんでしょ…、氷でも買ってきましょか…、いいウイスキー持ってきたんで…ええ…はい…」と“あやしい笑顔”がみんなを和ませました。

鈴木さんはキノコのこととなると真剣そのもの。秘密の場所は各地にあったようで、新座の妙音沢緑地、三宝寺池裏山の〇〇あたりのムラサキシメジ、当会倉庫裏の切り株のシメジも、でした。一度だけ無理言って、保谷の奥の森に案内していただきましたが、どうも“キノコ名人”は独りでこっそり楽しみたいようでした。地域の人々に親しまれていた鈴木さんは、近くの「みどり広場」の活動にもよく参加されていました。ご冥福をお祈りします。

(2012年11月22日逝去)

菅沢 博



同窓会帰りに「みどり広場」に立ち寄られた鈴木さんの笑顔がとても印象的でした！

新河岸川流域川づくり連絡会ほか共催 『川でつながる発表会』 大泉南小学校で開催！

会員みんなでサポートしよう！

2/10

新河岸川流域では毎年、川・水・環境について学習している学生たちの成果を発表していますが、第8回はいよいよ当地で、2013年2月10日開催となりました。発表会では、大泉南小学校4年生の白子川学習も予定されています。

地元開催団体として当会は、さまざまな面で運営をサポートすることになりますので、会員のみなさまの積極的な参加をお願いします。

【当日の流れ】 11時開会 16時閉会

◎午前 **現地見学会**…南小学校出発⇒石庭の森緑地⇒白子川源流⇒みどり広場⇒帰着

◎午後 **発表会**…小学生から大学生まで
交流会・パネル展示



第12回 白子川源流まつり

後援・涼馬区

第12回 白子川源流まつり

in 大泉南小学校

10月28日



大泉南小4年生の「白子川調べ」発表

ついに12年目にして雨にやられた「白子川源流まつり」は、場所を大泉南小学校の体育館に変更して開催となった。参加者数が大幅に減るのではないかと心配だったが予想外の賑わい(約500人)にスタッフ一同チカラをもらった。

でも、やっぱり「源流まつり」は川風にあたりながら大泉の風景の中で開催したいものだ。

- ★ 東北支援金は今年は約60,000円となりました。「支援焼きそば」「白子川グッズ」を買ってくださった方々に感謝します。昨年同様「宮城じょねっと」へ送金します。



カルガモの焼印押したよ!

ホトケドジョウが落ち葉を追う。



11月の川活動で、ホトケドジョウの神経質な動きが気になった。子どもたちのために、ザリガニやヤゴと一緒にホトケドジョウを水槽に入れ、落ち葉を浮かべると、真っ先にホトケドジョウだけが落ち葉の下にかくれた。落ち葉を動かすと、「あれ? “家”はどこだ?」と言わんばかりに、あわててまた落ち葉にかくれる。このくり返し。

私は直感した——ホトケドジョウにとって、落ち葉は里山の小川の豊かな植生と同じなのだ! だから、里山(小川)の消滅とともに激減して絶滅危惧種となったのだと。私たちは貴重な生物と向き合っている。(H.S)

<表紙の場所>

白子川上流起点(七福橋)近くのアパートから畑を見下ろす。遠くに山口さんの屋敷森がある。



新会員紹介 ☆ 横山 聖子

昨日はありがとうございました。
水辺の会の活動に初めて参加させていただいた横山聖子です。

子供の頃に時々通りかかった懐かしい白子川。その流れとそこに生きる小さな命を守るため、活動をされる方々がいらっしゃると知ったのは数年前、父が見つけた会報を拝読した時でした。そして今年春、犬を飼い始め、川沿いを散歩しながら見つけたカモの姿や美しい流れに感動しました。

昨日は上からしか見たことがなかった白子川の流れの中に立つことができ、

また新たな感動を覚えたと同時に会員の皆さんが温かくむかえてくださったことに感激しました。

年を重ねるごとに故郷であるこの地域での幼い頃の経験を思い出したり、自分自身の胸のうちにある地元へのさまざまな思いに気がつき、より大切に思うようになりました。そんな思いが募る中、参加させていただき、大変嬉しく思っています。

休暇の少ない勤め先であり、また療養中の家族がおりますので、参加できないこともあるかもしれませんが、何の知識もない小さな力ですが、少しでもお手伝いができるよう、できる範囲で参加させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いたします。(定例活動あとのメールより)

地域活動団体交流会 参加報告

このたび、下記のとおり地域活動団体交流会が行われましたのでご報告します。

記

1. 交流会名 「つながる！ ひろがる仲間と活動～地域活動団体交流会～」
2. 主催者名 練馬区福祉部経営課、
練馬区社会福祉協議会 ボランティア・地域福祉推進センター
3. 日 時 平成24年12月8日(土曜日)午後1時～午後4時
4. 場 所 練馬区役所アトリウム地下多目的会議室
5. 参加者 菅沢、駒井、八本、望月
6. 概 要

「①メンバーの増やし方(望月)、②活動周知の方法(八本)、③運営方法(菅沢)」のテーマ別のグループに分かれ、発言内容を書き出しながら団体同士の交流を深めました。

7. 所 感

私の参加したグループでは、人材・人手の確保、会員の高齢化、活動資金の不足といったことで困っているという意見が多数ありました。それには、様々なボランティア活動の内容を知っていただくために、幅広い年代を対象とした、このような交流の場の提供とボランティア活動の体験・研修・交流の機会を図ることが必要だと感じた。(記:望月 孝)

便器が「いとおしくなりました！」

東谷 篤

私たちの会の6月定例活動に随TOTOの張本社長が参加してくださった折、「陶器を作る現場はおもしろいもんだよ、一度見てみなよ」という会話を交わしたのだが、そのことをしっかりと社長が記憶して下さっていた。私が8月下旬にTOTO小倉第一工場を見学するようになったのは、その言葉がきっかけだった。



小倉は、若き松本清張が新聞記者をしていた街であり、その小説「或る『小倉日記』伝」や「黒地の絵」、さらに岩下俊作の「無法松の一生」などの舞台としても有名だから、かねてから一度は訪ねてみたい街だった。

小倉駅から西に歩いていくと大きな川に出る。その川が紫川(むらさきがわ)である。その川沿いに川上に歩いていくと、やがて風車のモニュメントのある「風の橋」に着く。TOTOのシンボルカラー青の、大きな看板が、どでかい工場の上に立っている。端から端まで歩いて15分は優にかかりそうな工場が、紫川沿いに続いている。小倉の街のど真ん中に、である。約束の時間に間に合うように急ぐ私の額には、まだ9時前だというのに汗が垂れていた。小倉もクソ暑い街だ。

受付では、人のよさそうな溝田さんが、わざわざ外に出て待っていてくれた。渴いた喉にお茶が効いた。まずは、会社の歴史をスライドで。下水道が普及するずっと前から便器を作ってきたという、その創業者の“根性”に驚いた。それをやる為に食器も作ったというが、今はもう作っていないその東陶の食器が、愛好家には涎の出るもの、らしい。

次に工場内を案内してくれた向さんという地元の娘さんは利発で、会社を誇りに思っていることがその話しぶりからよく伝わってきた。

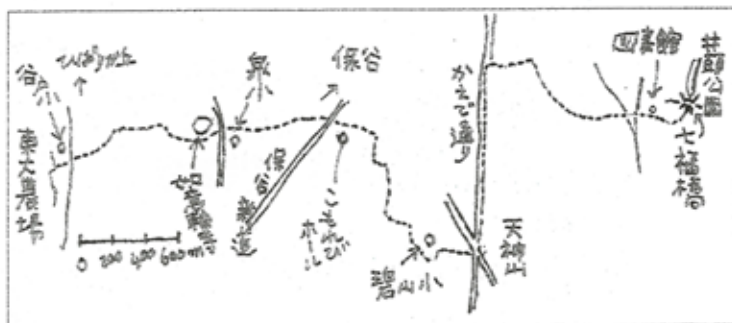
実際に粘土相手に一所懸命に働いている工員さんたちに、いたる所で「こんにちはー」と声をかけてもらいながら、私は実に気持ちよく工程を見て回ることができた。

まず、粘土の絶妙なこね具合、それを幾つかのパートに型取りする工程、それを今度は接着する作業。それは工具というよりまさに陶芸家だと思った。実に丁寧な手さばきの中で幾つかの型の便器が形を成していく。吹付けはコンピュータ操作。粘土たちは全ての工程をベルトコンベアで移動。そして、2基ある巨大な窯は、その中を一日かけて通過すると焼き上がるのだという。粘土は13%縮んで陶器になる。出来上がった製品は厳しくチェックされる。少しの膨らみでも、実際に廃棄されていた。このチェックは社内試験に合格した人だけが出来る仕事なのだそう。その、念入りにつつ仕上げていく工程は、私には決して軽くない驚きだった。

既に2時間が経っていた。またまたお茶がうまい。次に資料館に移動。山谷さんという博識なおじさんに、愛好家の“涎的”の一つひとつ説明してもらった。目利きではない私の眼にもその“涎たち”は美しかった。終えたらもう昼だった。お礼を述べて帰った。

それからというもの、家でトイレに入る度に私は両のかかとで便器をそっと抱えることにしている。いとおしくなったのである。

白子川の源流は、どこ？



Q 白子川の源流はほんとに七福橋なんですか？そもそも、源流に橋がかかっているなんておかしいと思いますが、教えてください。

A いい所に気がつきましたね。源流部に橋が架かっているのはやはりおかしいですね。

実は、私たちの会もそのことを調べてきました。これまでに私たちのわかったことをお話します。

現在の白子川の源流はどこ？と聞かれたら、私たちは迷いなく、七福橋と答えます。なぜなら、白子川を流れる水はすべて、七福橋から下流の湧水だからです。

しかしそれは、この地域に下水道が完備されてから以降のことです。それまでは七福橋の上流（つまり南側）にも川がありました。

今、その跡は遊歩道となって南大泉図書館の横を通っています。それに沿って西にいくと、途中で途切れたりしてわかりにくいですが、「かえて通り」の天神山交差点のあたりからまた、はっきりしてきます。（地図参照）

なぜその川がわかりにくいのかというと、細長いコンクリート板で蓋（ふた）された暗渠（あんきょ）になっているからです。暗渠とは、見えないように覆いをした水路のことです。

碧山小学校の校庭の下をくぐって反対側に出ると暗渠は「こもればいホール」の横へ、さらに西へと暗渠に沿って進んで行くとやがて「如意輪寺」。その境内には以前、水が湧く池があってその水が川に流れ込んでいたようですが、今は涸れて埋め立てられてしまったというこ

とです。こうして、最終的には「東大農場」まで行き着きます。

その先は、実は私たちが確かめたことはありません。東大農場の北西部には、ひばりが丘団地や落合川・立野川の源流部もありますので、ひょっとしたらそちらへつながっていたのかもしれない。

Q 東大農場から七福橋までの川はなぜ、なくなっただけですか？また、七福橋はなぜ、現在の白子川の基点になっただけですか？

A 1964年に東京オリンピックが開けられましたが、その準備のために東京の街は大きく変わりました。この大泉にもその時に移転してきた家々があります。農村地帯だったこの地域もこれがきっかけで住宅地へと大きく変化していったようです。

それまでの白子川は、現在の七福橋から上流は雨が降った時だけ水が流れる、古老が“シマツボ”と呼ぶものであったようで、また、七福橋から火の橋までは“弁天池”という、アシが生い茂る、人もなかなか近付けられない沼だったそうで、特に今の井頭公園はかつて、コンコンと水が湧いていたと言いますから、流れはここから始まっていたのでしょう。

このように、宅地化の波の中で弁天池から上流のシマツボは暗渠化され（現在そこを流れてくる水は下水道に流されています）、弁天池は埋め立てられて大泉井頭公園になったのです。

（東谷 篤）



『エコプロダクツ展』 TOTO(株)のブースで 白子川を紹介



12月中旬に東京ビックサイトで開催された『エコプロダクツ展』のTOTOブースにて、白子川源流と当会の活動の様子が映像紹介されました。TOTO(株)の水環境基金の助成金を受けている当会にとって余りある”恩恵”です。同社に感謝!! です。

《写真:TOTO(株)鈴木様》

これからの活動予定

- 1/26 運営会議
- 27 定例活動
- 29 川づくり連絡会
- 2/10 新河岸川流域
「川でつながる発表会」
in大泉南小学校
- 23 運営会議
- 24 定例活動
- 3/23 運営会議
- 24 定例活動

白子川の生き物 36 / 横山 松栄

ツタバウンラン (萋葉海蘭)



火の橋と松殿橋の間あたりの東側護岸にあります。ヨーロッパ産の帰化植物で、大正時代に日本に渡ってきたつる性植物です。

葉も花も小さく、花の色は青紫のパンジーのようで、形はスミレに似ています。花は一年中見られます。

編集後記

▼先日、夕焼けに映える大きな富士のシルエットを見た。大泉高校から続く第五住宅近くの道でだ。ところが、交差点を渡ると、富士は建物の陰でとたんに見えなくなり、間もなく、都市に残る畑の遥か遠く西方に小さく姿を現す。ちょっとした移動でこうも見え方が違うものか、このトリック、だれか教えて。(さ)

▼わたしの家は白子川源流の南にあって、川まで歩いて5~6分。七福橋に向かって坂を下りはじめると、大きな空の下に山口さんの畑と白子川が見える。この景色が広がると、川も畑もない所でそだった者としては、なつかしいわけがないけれど、そんな気持ちになってくる。(け)

発行 白子川源流・水辺の会
編集 東谷 篤/東谷貞子/菅沢恵子
題字 宮本沙海
発行部数 1200部
代表 菅沢 博 03-3923-8430
練馬区南大泉 1-10-5
suga-lohas@jcom.home.ne.jp
http://www.geocities.jp/sirako_river/

※この会報は年3回発行しています